

碓東小通信 培根



宕中市立碓東小学校

令和4年5月13日

NO.5

文責：峰岸

やさしいことば 笑顔いっぱい

5月の全校朝礼を今年度初めてリモート（各教室の電子黒板で視聴）で行いました。初めての経験になる1年生からは「校長先生、TVに出ていたね。」「校長先生はYouTuberなの?」と、思わず微笑みたくなるような言葉をもらいました。今回の話は、挨拶と言葉遣いのお話でした。

碓東小学校のスローガンの一つに「明るいあいさつ 笑顔いっぱい」があります。朝の「おはようございます」の挨拶、廊下で会った時の「こんにちは」の挨拶は昨年度に比べてとてもしっかりできるようになっています。今回は、「挨拶だけで笑顔になれるかな?」という話をさせてもらいました。

今日は「明るいあいさつ 笑顔いっぱい」の話をしましたが、「笑顔いっぱい」になるためには「明るいあいさつ」の他にも必要なものがあると思います。「笑顔になるために必要なもの」、それは「やさしいことば」です。どんなにあいさつが上手にできても「やさしくない言葉」「人を傷つける言葉」を使う人がいっぱいいる学校は、笑顔いっぱいにはなりません。「やさしくないことば」「人を傷つける言葉」にはどんなものがあるでしょうか?「うざい」「きもつ」「きえろ」「死ぬ」などの言葉がそうですね。碓東小にもゲームの影響なのか、調子に乗って、ふざけすぎてこんな言葉を言ってしまう人もいるかもしれません。そんな言葉が碓東小からだけではなく、世の中からなくなればよいと思います。

最後に言葉の大切さを伝えるために、北原白秋さんの「ひとつのことば」という詩を紹介します。(後掲)

人は一つの言葉で元気になったり、悲しくなったりします。一つの言葉を大切に、ひとつのことばを美しくできる人になりましょう。そして、笑顔いっぱいの碓東小学校になるようにみんなでがんばりましょう。

ひとつのことばを	ひとつのことばを	やさしいことばは	きれいなことばは	持っている心	ひとつの心を	それぞれに	ひとつのことばは	ひとつのことばで	ひとつのことばで	ひとつのことばで	ひとつのことばで	ひとつのことばで	ひとつのことばで	ひとつのことばで
美しく	大切に	やさしい心	きれいな心				泣かされる	楽しく笑い	心が痛む	頭が下がり	なかなおり	けんかして		

北原 白秋

『ひとつのことば』

“3つのいっぱい”があふれる学校に

○やさしいことば
笑顔いっぱい



フジバカマを植えました

昨年度、全校集会や学校だよりで「フジバカマ」という植物について紹介しました。「フジバカマ」は、安中市ではどこにも生えていない絶滅している植物です。そして、「フジバカマ」の花の蜜を好物としているのが「アサギマダラ」という蝶です。「アサギマダラ」という蝶は世界で唯一、海を越えて2000kmも渡りをする蝶です。大変珍しい蝶なので、「アサギマダラ」が見られたら、捕まえて、放した日付や場所、放した人のイニシャルを羽にマーキングするそうです。そうすると、どこでいつ見られた「アサギマダラ」かがすぐに分かるという仕組みです。群馬県で見られた「アサギマダラ」は北は北海道から南は鹿児島まで飛んだという記録があるそうです。

昨年度、流水池の入り口付近に植えた「フジバカマ」は順調に生長しています。「いきものふれあいの里」推進事業協議会の方々が、今年度、新たに「フジバカマ」を準備してくれました。それを企画委員と環境委員の子供たちがお手伝いして、昼休みを利用して学校の北側の畑に植えました。「いきものふれあいの里」推進事業協議会の方の話では、日当たりがいい場所なので、「フジバカマ」の成長も早いだろうということです。

「フジバカマ」がきれいな花を咲かせ、「アサギマダラ」が飛来したら、お知らせしたいと思います。

